



From Doctor

市民病院医師からのお話を紹介します！

早期発見が鍵！不安を解消する「検診と検査」

市民病院 ☎ 57-0057

PSAを身近に



泌尿器科
上川裕輝

PSAとは

「PSA(前立腺特異抗原)」とは、前立腺から分泌されるタンパク質のことで、前立腺の状態を示す指標として利用されます。

PSA値は前立腺がんなどにより上昇するため、検診で「PSA値が高い」と聞くと、不安になる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、「PSA値が高い」がんとは限りません。

検診では、およそ12人に1人が高値と判定されますが、基準値を少し超えた程度なら、がんが見つかるのは5人に1人ほど。まずは慌てないことが大切です。また、

尿の勢いが弱い、回数が多いといった排尿の症状も、その多くは前立腺肥大症や過活動膀胱ぼうこうによるもので、がんとは限りません。

一方で、早期のがんは症状が現れにくいため、高値と判定された場合は、自己判断せず、検査を受けて詳しく調べるのが大切です。

高値だったら、どう調べる？

泌尿器科でPSA再検査や直腸診、超音波、あるいはMRI検査を行い、がんが疑われるときには、細胞を顕微鏡などで詳しく調べる「生検」を行います。市民病院では、日帰りの経直腸生検と、入院で行うMRI融合標的生検(※)の両方に対応しています。

※がんが疑われる部分の細胞を正確に採取できる方法

早く見つければ、治せます

検診で見つかるがんの約9割は治せる段階のものです。早期発見のために、症状が無くても定期的に検診を受けましょう。



ID:1003124

遺伝性がんとその治療



化学療法センター
主任部長・古田美保

乳がんの約1割は遺伝性

乳がんの5〜10%が遺伝性と考えられています。その中で多いのは、先天的な遺伝子の変異が原因である「遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)」という体質です。この体質は、性別に関係なく親から子へ50%の確率で受け継がれ、乳がんや卵巣がんだけでなく、すいぞう膵臓がん、前立腺がんにもなりやすくなると言われています。

「自分に合う治療」を見つかるための遺伝子検査

現在、このHBOCに対する保険診療が拡大しており、薬の適応

判断や、手術術式など治療法の選択のために遺伝子検査を行う患者さんが増えています。

また、今年の6月からは、HBOCと診断された患者さんの「両親・子・兄弟姉妹」の遺伝子検査や、がんが発症する前に予防として行う乳房切除・卵巣卵管摘出手術も保険適用となりました。この遺伝子検査は、ご自身だけでなく、血縁者の健康管理にも有用な情報ですが、検査を受ける意義やリスクをご本人やご家族と共に検討し、意思決定をサポートする「遺伝カウンセリング」が必要となります。

がん関連イベントを市民病院で行います

緩和ケアイベント

10/6(火)〜23(金)

アピアランスケア相談会

10/23(金)10:30〜13:30

